

マルパフォーラム 2025 in Hayama

ほぐし ひらき つながる これからに

2016年度に公益財団法人かながわ国際交流財団の呼びかけで始まった、湘南・三浦半島地域の公立美術館が連携しながら、定住外国人や障がいのある方々を対象としたインクルーシブな教育普及事業の企画・実施を行う「マルパ (MULPA)*」プロジェクトは、地域の多様な背景を持つ人々とのつながりを深めるため、研修会やワークショップなどを展開して来ました。2025年度末を持ってプロジェクトを終了するにあたり、どのような社会的意義が見い出せたのか、プロジェクトに関わってきたみなさまとともに考えます。

※MULPAとは Museum UnLearning Program for All の頭文字を取った略称で、日本語では「みんなで“まなびほぐす” 美術館—社会を包む教育普及事業—」としています。

ハイブリッド
開催
(会場／ZOOM)

参加費
無料

定員
会場 60名 | オンライン 100名

日時 2026/2/28 (土) 13:00 ~ 16:30 (視聴入室 12:30)

会場 湘南国際村センター地下1階国際会議場 (神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39)
※交通アクセスについてはこちらをご参照ください
<https://www.shonan-village.co.jp/access>

プログラム 【第1部】実績紹介～これまでのマルパ・プロジェクトの活動について～

- ・藤川 悠 (茅ヶ崎市美術館学芸員)
- ・鈴木 (中野) 敬子 (東京都写真美術館 事業企画課普及係社会包摂プログラム担当)
- ・小林 絵美子 (藤沢市アールスペース学芸員)
- ・ホセイン・ゴルバ (アーティスト) ※ (通訳: 段田尚子 (イタリア語⇄日本語))
- ・高山 明 (演出家・アーティスト／演劇ユニット Port B (ポルト・ビー) 主宰
東京藝術大学大学院映像研究科教授) 高山明様ですが、やむを得ない事情により欠席となりました。楽しみにされていた皆さまにはご迷惑をおかけし、心よりお詫び申し上げます。
- ・渋谷 実希 (一橋大学大学院・東京大学・津田塾大学 非常勤講師)

<休憩 15 分>

【第2部】講演 (対談) 「マルパ・プロジェクトを“まなびほぐす”」

- ・ロジャー・パルバース (作家／映画監督) × 水沢 勉 (マルパ実行委員長／美術史家・美術評論家)

【第3部】コメントセッション

申し込み 下記ホームページの参加フォームまたはQRコードからお申込みください。

https://willap.jp/p/acc_4614/tabunka_mulpa/

※会場またはオンライン参加のいずれかを選択してください。

申込締切: 2026 年 2 月 25 日 (水)

問合せ 公益財団法人かながわ国際交流財団 (大塚・清水)
Email: mulpa-2025@kifjp.org TEL: 045-620-5045



実績紹介



©Ben Matsunaga

ふじかわ はるか

藤川 悠（茅ヶ崎市美術館 学芸員）

1980年広島生まれ。2003年昭和女子大学生生活環境学科卒業。広島市現代美術館、森美術館、東京都現代美術館を経て2014年から現職。現代美術と教育普及を専門とし、環境や空間を活かし人の感覚に働きかける展覧会やプログラムを実施。2019年インクルーシブデザインの手法を用いた「美術館まで（から）つづく道」展を企画。その他、文化庁メディア芸術祭アート選考委員、オリンピック・パラリンピック公式文化プログラム「Our Glorious Future KANAGAWA 2021」アートキュレーターを務め、現在、女子美術大学、昭和女子大学非常勤講師を兼務。



すすき なかの けいこ

鈴木（中野） 敬子（東京都写真美術館 事業企画課普及係社会包摂プログラム担当）

1969年新潟県生まれ。千葉大学大学院自然科学研究科 博士後期課程修了。2000年より「写真の力と生きる力」をテーマに教育や福祉、医療の現場で、発達障害や不登校の子どもたち、パーキンソン病友会、高齢者と写真を創造する、鑑賞し合う、つながるワークショップを多数実践。千葉大学工学部非常勤講師、神奈川県立近代美術館普及課非常勤学芸員を経て2023年より現職。（一社）日本写真学会幹事、「教育への写真応用研究会」主査。



こばやし えみこ

小林 絵美子（藤沢市アーツスペース学芸員）

1984年神奈川県生まれ。2008年多摩美術大学美術学部日本画専攻卒業。2010年より藤沢市民ギャラリーに勤務、2015年より現職。「木目をつくる」（2019年）、「core of bells WEEKEND」（2020）、「伝えたい情景 山岸主計と現代作家たち」（2022年）など若手アーティストとともに多数の展覧会を企画。また、様々なワークショップ、講演会のほか、市内学校に向けたアウトリーチ事業やパブリックアートについてのイベント、シンポジウムなどを企画している。



ホセイン・ゴルバ【Hossein Golba】(アーティスト)

1956年イランのバーボル生まれ。1976年イタリア移住。1983年ミラノ・ブレラアカデミア美術学校卒業。1997年来日。日本での主な個展に「時を彫る」ときわミュージアム（山口、2008）、「Naan－寛容の詩学」ギャラリー TOM（東京、2011）、「時を彫る 2016」加地邸（神奈川、2016）。主な国際展に、シンガポールビエンナーレ（シンガポール、2006）、別府現代芸術フェスティバル（大分、2009）、ボズナンビエンナーレ（ボズナン、ポーランド、2010）。



たかやま あきら

高山 明（演出家・アーティスト／演劇ユニット Port B（ポルト・ビー）主宰 東京藝術大学大学院映像研究科教授）

1969年浦和市（現・さいたま市）生まれ。早稲田大学第一文学部除籍。国内外の諸都市において、ツアーパフォーマンスや社会実験、教育事業やメディア開発など、多岐にわたる活動を展開しているが、いずれの活動においても「演劇とは何か」という問いが根底にあり、演劇の可能性を拡張し、社会に接続する方法を追求している。著書に『テアトローン 社会と演劇をつなぐもの』（河出書房新社）など。

※高山明様ですが、やむを得ない事情により欠席となりました。楽しみにされていた皆さまにはご迷惑をおかけし、心よりお詫び申し上げます。



しぶや みき

渋谷 実希（一橋大学大学院・東京大学・津田塾大学 非常勤講師）

皆さま、こんにちは。今回は貴重な機会をいただき光栄です。私は日本やタイでことばの教育に携わってきました。現在は大学で日本語教育や日本語教員養成を担当しています。「外国人－日本人」、「教える－教えられる」という枠を超えて、多様な人が共に社会をつくっていくためのことばの教育、コミュニケーションのあり方を研究しています。皆様にお会いできることをとても楽しみにしております。これまでの著書には『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（研究社）などがあります。

講演



ロジャー・パルバース【Roger Pulvers】(作家／映画監督)

1944年アメリカ生まれ。作家／映画監督。ハーバード大学大学院ロシア地域研究所で修士号を取得。1967年初めて日本の土を踏む。大島渚監督作品『戦場のメリークリスマス』の助監督。著書に、『旅する帽子 小説ラファディオ・ハーン』（講談社）、『英語で読み解く賢治の世界』（岩波書店）、『もし、日本という国がなかったら』（角川ソフィア文庫）、『時の一針一針』（作品社）。第18回宮沢賢治賞、第19回野間文芸翻訳賞、第9回井上靖賞を受賞。2018年、旭日中綬章受章。



みずさわ つとむ

水沢 勉（マルパ実行委員長／美術史家・美術評論家）

1952年横浜生まれ。1976年慶應義塾大学文学部卒業。1978年慶應義塾大学大学院（修士）卒業後、神奈川県立近代美術館の学芸員となる。2006年から2008年まで横浜トリエンナーレ 2008「タイムクレヴァス」総合ディレクターを兼務。2011年から23年まで同館館長。単著に『この終わりのときにも 世紀末美術と現代』思潮社、1989年、『エゴン・シーレ まなざしの痛み』東京美術、2023年、共編著に『点に在る中心』春秋社、1995年、『モダニズム／ナショナリズム』せりか書房、2003年、監修に『樹の瞳 宮崎郁子作品集』私家本、2013年、『柚木沙弥郎 永遠のいま』平凡社、2024年